

低金利政策が 欧州の社債市場の追い風に

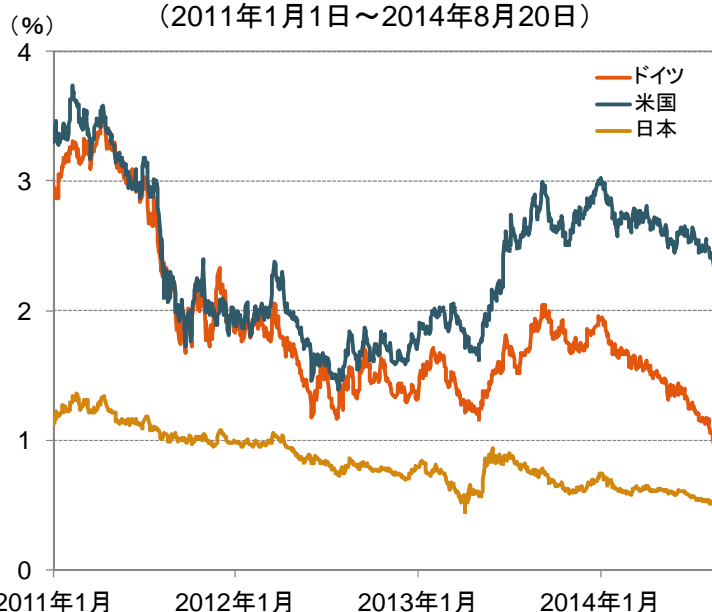
ユーロ圏では、10年国債の利回りが過去最低水準となっている国が多くみられています。特に、ドイツの10年国債の利回りが大きく低下しており、それに代わる投資先を模索する動きが広がっていることから、欧州では、投資適格社債を中心に相対的に利回りの高い社債が、利回り資産として注目を集めています。

社債の利回りは、発行体の信用力に応じて金利が上乘せされることから、一般に、社債発行国の国債利回りを上回る傾向となっており、国債との利回り差(スプレッド)が投資尺度の1つとされています。米国では、緩やかな景気回復が続くなか、金融緩和政策の出口戦略が模索され始めており、来年には政策金利の引き上げが予想されています。一方、欧州では、英国の景気は回復方向にあるものの、ユーロ圏では国によって回復状況が大きく異なることに加え、物価が低水準にとどまり、デフレへの懸念が残っています。このため、ECB(欧州中央銀行)のドラギ総裁が8月の理事会後の会見で、引き続き追加緩和を視野に入れるとともに、金融緩和が長引くとの見通しを示しました。ユーロ圏における低金利の長期化により、スプレッドが注目され、欧州の社債は引き続き選好されると考えられます。

なお、欧州の社債のなかでもハイイールド社債については、ウクライナ情勢などの地政学的リスクの台頭を背景に、投資家がリスク回避姿勢を強めたことを受け、利回りが上昇しました。一方で、上述のとおり、ユーロ圏を中心に国債利回りが低下したため、ハイイールド社債と国債とのスプレッドは拡大しています。今後、地政学的リスクが後退し、投資家のリスク回避姿勢が和らげば、相対的な利回り水準の高さから、ハイイールド社債への資金流入が再開すると考えられます。

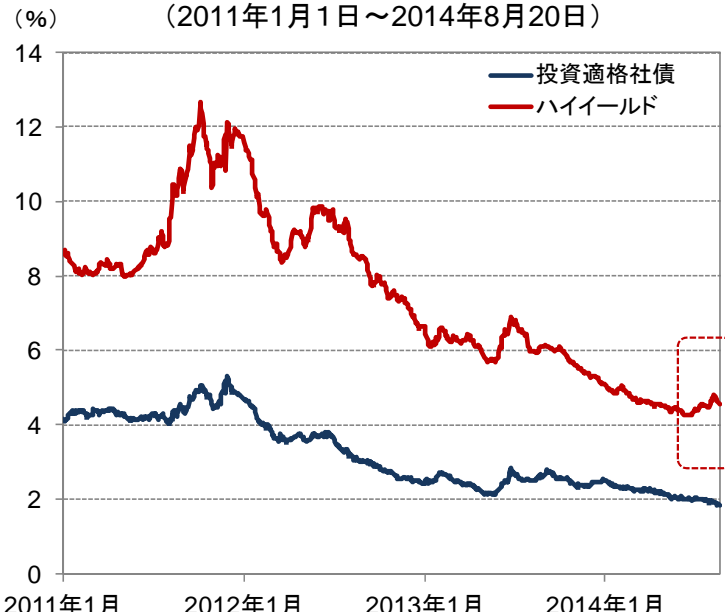
低下傾向が続くドイツの国債利回り

ドイツ、米国、日本の10年国債利回りの推移
(2011年1月1日～2014年8月20日)



足元で、ハイイールド社債の利回りは上昇傾向に

欧州の投資適格社債とハイイールド社債の利回りの推移
(2011年1月1日～2014年8月20日)



【投資適格社債】パークレイズ汎欧州投資適格社債インデックス

【ハイイールド社債】パークレイズ汎欧州ハイイールド社債インデックス

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成) ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。